

J A 柏崎自己改革工程表（平成28年度～30年度）

3年後の成果目標

- ①担い手経営体の面積シェア 60%
- ②正組合員戸数 8000戸キープ
- ③販売品取扱高(合計額) 3%アップ(33億円)
- ④園芸の販売品取扱高 10%アップ(1.3億円)
園芸作付面積 10%アップ(40ha)
- ⑤食農教育活動参加成人人数 500名

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)	
		平成29年度振り返り	平成30年度上期振り返り
地域農業の担い手の育成・支援	担い手経営体を育成し、6割の生産をカバーする。	○TAC担当4名による、担い手経営体への育成支援 資金融資による上期農業融資98件。325,768千円 ○新規就農の生産者へ青年就農給付金を活用するための相談面接を行っている。29年(12名)	○TAC担当4名による、担い手経営体への育成支援 資金融資による上期農業融資 29件。 99,723千円 ○新規就農の生産者へ青年就農給付金を活用するための相談面接を行っている。30年(12名)
	評価指標：担い手経営体の面積シェア	目標：58% (実績：60.1%)	目標：60% (実績：63.4%)
	担い手経営体に対するJAのTAC活動を強化し、所得向上の支援をする。	○TAC担当4名が単収の少ない生産者をリストアップし、収量向上を図り所得確保の相談を行った。(各担当4名) ○JA役員とTAC担当者4名で担い手農業者へ個別訪問 担い手農業者 161件 訪問件数 145件	○TAC担当4名が単収の少ない生産者をリストアップし、収量向上を図り所得確保の相談を行った。(各担当4名) 重点訪問先 12件
生涯現役・一生農業運動を展開し、多様な担い手を確保する。	○定年帰農者向け畑作講習会 ○正組合員の減少対策として総合情報データベースを活用し組合員家族等リストアップとと共に具体的対応を検討した。(一戸複数正組合員化)	○定年帰農者向け畑作講習会 ○正組合員の減少対策として総合情報データベースを活用し組合員家族等リストアップとと共に具体的対応を検討した。(一戸複数正組合員化)	
評価指標：正組合員戸数	目標：8,200戸以上 (実績：7,619戸)	目標：8,000戸以上 (実績：7,646戸)	

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)	
		平成29年度振り返り	平成30年度上期振り返り
園芸生産の拡大	園芸重点8品目の生産拡大を40haを達成する。	○玉ねぎ乾燥調整機・定植機・収穫機、枝豆収穫機を導入。 玉ねぎについては定植・収穫機械を貸出(収穫6ha(100t)定植9.5ha 乾燥調整については100t処理。 枝豆は調整荷受け量で14t処理。作付け10haに増加 予冷庫は玉ねぎ100t出荷内7t予冷庫で保管 ○大規模農家、生産法人を中心に作付け普及推進	○玉ねぎ乾燥調整機・収穫機を新たに1台導入予定。 玉ねぎについては定植・収穫機械を貸出 定植9.0ha 乾燥調整については106t処理。内9t予冷庫で保管 ○枝豆、色彩選別機導入 枝豆の作付けは15.9haに増加。 調整荷受け量で25t処理A品出荷14.6t。 ○大規模農家、生産法人を中心に作付け普及推進
	評価指標：重点品目作付面積	目標：28ha (実績：27.8ha)	目標：40ha (上期実績：34.0ha)
	食農教育の推進を目指し学校給食供給率の拡大	○学校給食供給 学校給食納入 28品目 28t 出荷(玉ねぎ出荷増) 供給率 52.8%	○上期 学校給食納入 11品目 6.9t 出荷 供給率 50.0%
農産物直売所を生涯現役・一生農業運動の拠点と位置づけ、地場農産物の売上げを2割アップする。	○29年愛菜館 地場産農産物売上 地場野菜販売 計画 88,000千円 計画比95.0% 地場野菜販売 実績 83,578千円 前年同期 87,588千円 前年比95.4% ・利用組合員へのJA育苗ハウスの貸付け 1件 ・イベント実施 本年開催日数 51日 販売金額 56,705千円 前年開催日数 48日 販売金額 60,971千円	○29年愛菜館 地場産農産物売上 地場野菜販売 計画 89,000千円 計画比 52.7% 地場野菜販売 上期実績 46,958千円 前年同期 46,683千円 前年比100.5%	
評価指標：直売所販売高	目標：1億200万円 (29年実績：1億1,142万円) 地場野菜・加工品・工芸品	目標：1億600万円 (上期実績：61,221千円) 地場野菜・加工品・工芸品	

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)	
		平成29年度振り返り	平成30年度上期振り返り
米の品質向上と多様な品揃え	中干しによる確実な生育抑制を図りスリムな稲づくりを目指し1等米比率の高位安定化。	○中干し指導会 88会場 474名参加 ○穂肥指導会 84会場 511名参加 緊急案内 穂肥1回 ○低コスト省力化技術指導会 35名参加	○中干し指導会 77会場 408名参加 ○穂肥指導会 84会場 554名参加 緊急案内 穂肥1回 ○低コスト省力化技術指導会 26名参加
	評価指標：1等米比率	目標：95%以上 (実績：90.9%)	目標：95%以上 (実績： -)
	土づくりによる登熟後半までの稲体活力維持	○土壌分析は1年300ヶ所調査 10月上旬に土づくり指導会4会場 31名参加	○土壌分析は1年300ヶ所調査 10月上旬に土づくり指導会4会場 開催予定
評価指標：秋すき込み率	目標：20% (実績：31%)	目標：30% (実績： -)	
差別化商品としての「こだわり米」の取扱拡大。	○早期越路 54.4ha 3,292俵 7割減減 12.8ha 850俵 あきだわら 55.2ha 3,990俵 ○業務用米取組説明会 54名参加	○早期越路 35.5ha 2741.9俵 葉月みのり 8.0ha 544.7俵 7割減減 10.4ha - 俵 あきだわら 51.4ha - 俵 ゆきん子舞 74.6ha - 俵	
評価指標：こだわり米取扱量	目標：8,600俵 (実績：8,132俵 94.5%)	目標：10,100俵 (実績： -)	

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)	
		平成29年度振り返り	平成30年度上期振り返り
食農教育を核とした地域の活性化	○健康への関心が高いことから好評のウォーキングをJAの取り組みとして拡充	○女性部支部で独自ウォーキング開催 4会場 ○下期にJA柏崎秋の味覚満喫ウォーキング開催 10月7日 247名参加	○女性部全体、支部で独自ウォーキング開催 6会場 下期に4会場予定 ○下期に第3回JA柏崎秋の味覚満喫ウォーキング開催 10月13日予定 (300名募集)
	評価指標：上記活動参加者数	目標：400名 (実績：277名)	目標：500名 (実績：103名)
	小学5年生の米づくり体験の支援を充実させる。	○田植7カ所指導(高柳・鯖石・北条・半田・刈羽・東村山・はまなす) ○稲刈り体験指導(高柳・鯖石) 2カ所	○田植体験指導：7カ所(高柳・鯖石・北条・半田・刈羽・東村山・はまなす) ○稲刈り体験指導(高柳・鯖石) 2カ所予定
○地場産品を使った料理講習・食農研修の実施等、食農教育を通じた地域住民の健康増進と絆を深める取り組み。	地場産品を使った料理講習 ○野菜ソムリエ 3会場(愛菜館・刈羽・西山) 11回開催 ○食育ソムリエ 1会場 食育プロジェクト 8回開催	地場産品を使った料理講習 ○食育プロジェクト 3回開催	
評価指標：上記活動取組回数	目標：四半期に2回 (実績：33回)	目標：月1回 (実績： -)	